このテストから〝アタマをよくする〟が始まります！

4年　日能研 全国テスト　算数

たとえば算数の問題

答えはすべて答案用紙に記入しましょう。
消費税は品物のねだんにふくまれているものとします。

1 1か月後に行われるクラス対抗の立ち幅跳び大会に出場する代表者を、各クラスから1人ずつ選ぶことになりました。
4年1組では、オサム君とアキラ君の2人が立候補しました。
そこで、2人に立ち幅跳びを5日間それぞれ1回ずつしてもらい、その結果をもとにした自己アピールを聞いてから、クラスの代表者を選ぶことにしました。

次の表は、2人の立ち幅跳びの結果です。

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
オサム君	154cm	169cm	156cm	158cm	163cm
アキラ君	159cm	160cm	161cm	162cm	163cm

この結果をもとに、オサム君は次のような自己アピールをしました。
「ぼくの最高記録は169cmで、アキラ君の最高記録は163cmです。ぼくの方が記録がよいので、ぼくをクラスの代表者として選んでください。」

同じように、あなたがアキラ君になったつもりで、5日間の結果をもとに、自分を代表者として選んでもらえるような自己アピールの内容を1つ考え、数や言葉を使って書きましょう。

作問の工夫
素材となるデータに盛り込んだいろいろな仕掛け。オサム君は、力を発揮するときと調子の悪いときのムラがある……。アキラ君は、飛び抜けた記録はないが、少しずつ成績が上昇……。データのとらえ方により、さまざまなアピール内容が考えられます。登場人物の個性までもが、考えるための素材になります。

作問の工夫
書き方は自由です。字数制限などのしばりを特に設けず、自由に考えを広げられるような出題形式にしています。

作問の工夫
「もし自分が立候補者なら?」。そんな状況をテストの中に設定。子ども達のココロを動かし、「アタマを使ってみよう!」という状況をいかに提供するか。それが「問題を解かなければいけない」ではなく、「自分ごと」として考えるモチベーションへとつなげます。

作問の工夫
ライバル（オサム君）が、自分にはない強みをアピールしてきました。自分の考えだけを押し通してもうまくいかないようです。相手の考えをふまえなければ、みんなが自分を選んでくれないかもしれません。そんな臨場感あふれる状況設定。だから子ども達は、いっぱいアタマに汗をかいて考えてくれるのです。

日能研のテストは、〝昨日までの既知〟を測るだけでなく、
子ども達が未知や想定外と出会い、「これから先、どんな学びを広げていけるか」という
〝明日へのステップ〟を見つけるための、未来志向型テストです。

「動く！動く！アタマが動く！これって、〝アタマをよくする〟ってこと？」というテスト。

「アタマがいい」人。具体的にどんなアタマをイメージしますか？**「いろいろなことをたくさん知っている」「物事の理解が速い」「独創的なアイデアを思いつく」「機転が利く」**などが全部？「いいアタマ」が実際に意味するものは、**時代と共に変化**しているのではないでしょうか。

未来が過去の延長線上にあると信じられていた時代。**現代**。未来はもう過去からの延長線上に定まらず、不確定で不安定。前例のない問題、まだ**答えのない問題**さまざまな問題にはすべて前例があり、過去の事例を**記憶して再現**すれば問題は解決する。その時代は「知識が**たくさんつまったアタマ**」がいいアタマだったわけです。

日能研「全国学びテスト」は、**〝未知〟と出会うチャレンジの場**。「テスト」と言えば、子ども達がすでに持っている〝既知〟を測るものというイメージが強いですよね。でも、日能研のテストは昨日までの既知ではなく、未知と出会い、**明日へのステップ**を見つける子ども達のためのもの。「このくらいできている」という到達や達成よりも、「これから先、どんな学びを広げていけるか」という新しい視点でつくられた、**学びを育てるテスト**です。

問題文がかなり長い。でも、おもしろい。書かれていることをしっかりと読む、答えを考える。その答えが必ずしも1つではないとすれば……。知っていることを書くだけではない。**自分が「考える」**ことは、子ども達にとって大切な体験であると同時に、ワクワクする冒険になる。いままでとは違う**学びが刺激され**、アタマが生き生きと動き出す。それは、「よく動くアタマ＝いいアタマ」「テストを仲間にする」への第一歩。だから。

〝アタマをよくする〟を始めよう！
日能研「全国学びテスト」で。

小学校2〜5年生なら、どなたでも参加できます！

全国学びテスト

6/23（日）　小3　小4　小5
7/7（日）　小2
参加無料

日能研

©NICHINOKEN